

会 議 録				
平成22年度第3回 社会教育委員の会議	日 時	平成22年7月21日(水) 午前9時30分～11時30分	場 所	小金井市役所第二庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員 その他 事務局	伊藤、浦野、倉持、小林、樹、田尻、中村、本多、本川、吉池 各委員 渡辺生涯学習部長、尾崎生涯学習課長、宮腰スポーツ振興担当課長、田 中図書館長、大関公民館長 林生涯学習係主事		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可	傍聴者数	0人	
次 第				
<p>1. 協議事項</p> <p>(1) 平成22年度地域文庫補助金交付内訳について</p> <p>(2) 平成22年度スポーツ関係団体への補助金交付額について</p> <p>(3) 平成23年度社会教育委員の会議の日程・研修について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>(1) 都市社連協第5回ブロック理事会について</p> <p>(2) 玉川上水・小金井桜整備活用計画の策定について</p> <p>(3) 第21期小金井市公民館企画実行委員会の選任について</p> <p>(4) (仮称) 小金井市貫井北町地域センター建設市民検討委員会委員の選出について</p> <p>(5) 三市・学芸大連携事業について</p> <p>(6) 第2回市議会定例会の報告について</p> <p>(7) その他</p>				
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
<p>1. 協議事項</p> <p>(2) 平成22年度スポーツ関係団体への補助金交付額について</p> <p>(本川議長)</p> <p>平成22年度第3回社会教育委員の会議を開催する。図書館長がまだ来ていないので(2)から始める。</p> <p>では協議事項2、平成22年度スポーツ関係団体への補助金交付額についてお願いします。</p>				

(宮腰スポーツ担当課長)

スポーツ関係団体への補助金交付額について資料を用意した。これは第1回目、4月21日の社会教育委員の会議において、中村委員から御質問について、まとめたものである。今年度の補助金は、財団法人小金井市体育協会と特定非営利法人黄金井倶楽部の2団体に予算の範囲内で交付している。以上である。

(吉池委員)

私は体育協会からの推薦で来ているので発言する。現状において、小金井市体育協会は今年度、200万ぐらいの赤字になると想定されておる。それに対して補助金が減っている、今後の運営について非常に大きな問題になっている。この11月に改選を迎えるが、次の期の大きな仕事は公益財団法人化の手續と財政健全化、200万の借金をどうするか。どうして200万という赤字が出てくるかということであるが、小金井市体育協会、財団法人に何十年も前からなっていたが、法人登録をしていなかったの、税金がかかっていなかったの。補助金をもらっている財団法人が、小金井市の法人としての登録がないということで、公益財団法人化を目指す過程の中で社会保険制度が財団法人になっていないということ等を東京都の指摘で手續を試みたら、保険・年金等の事業主負担等、税金等を含めて多額なマイナスが出た。そういう支出増というところを、補助金の手續もしておくべきだったが、担当で支出は財団法人の運営上、きちっとしてみたら、入りの手續を行政と調整していなかったということでマイナスになってしまった。19日の祝日に体育協会始まって以来、完全な実施事業という形で、総合格闘技のイベントを、市長とか議員にも来ていただいて開催した。プロレスという特殊な形で、いろいろなご意見もあろうかと思うが、何でそういう形になるかということ、財団法人としての赤字を何とかしなきゃいけないということ。それと、たまたま体育協会の副会長のお子さんが中量級のチャンピオンであったこと。三小メッツ出身でシニア・リトルリーグということで、小金井の出身者がチャンピオンになっているということと、父が現在、現役の副会長であるので、協力して小金井の財団法人の体育協会の赤字の補てんを何とかしようということで、理事会で決定して実施した。成功したが、それほどの収益は上がってこないのではないかとということで、現状において非常に苦しい状態である。今後、行政の補助金の増額ということで、こちらでは、次の期は明確な方針を出していこうと考えている。

奇手と言っていい技としては、体育協会の会長を現役の市長に頼むと。東京都の場合には、現役の石原都知事が体育協会会長である。大体、全国の体育協会の場合には、今は自民党の森喜朗だが、小金井の場合には現在、普通の人が会長をやっているの、ちょっと政治力に欠けるといふか、その辺に反省しなきゃならないところがあるのかなという状況である。長くなったが、非常に厳しい状況なので報告しておく。以上である。

(3) 平成23年度社会教育委員の会議の日程・研修について

(本川議長)

事務局により昨年と同様な形で日程を組んでいただいているが、基本的には第3水曜日の午前で考えている。ただし8月17日水曜日がお盆の最中なので、今年度同様第4水曜日午後ということでもいいか。小委員会の件であるが、特に問題なければ資料の予定表通りでもいいか。

(倉持委員)

申し訳ない10月13日は都合が悪い。

(本川議長)

では9月8日に動かしてはどうか。

(尾崎生涯学習課長)

その日は厚生文教委員会があるので生涯学習課長は出席できない。事務局のみの対応となる。

(本川議長)

では、10月13日午前10時からを9月8日午前9時に変更とする。

続いて、平成22年第1回三者合同会議懇談会については11月17日ということである。

#### (1) 平成22年度地域文庫補助金交付内訳について

(田中図書館長)

平成22年度地域文庫補助金交付内訳についてご説明する。社会教育法第13条で、社会教育団体への補助金交付に当たっては、社会教育委員の会議の意見を聞いて行わなければならないとされており、これに基づいて協議をお願いするものである。図書館では、小金井市地域文庫補助金交付要綱に基づき、読書普及活動の活発化を図るため、図書及び読書に関する研究、調査、相談、講習その他の活動を行い、地域社会に奉仕する地域文庫に対して補助金を交付している。補助金交付対象となっている小金井市子ども文庫サークル連絡会は、地域で活動している文庫サークル7団体で構成されている。今年度については、子どもと絵本を結ぶという事業に対して交付するもので、金額は3万円となっている。説明は以上である。

## 2. 報告事項

#### (1) 都市社連協第5回ブロック理事会について

(本川議長)

都市社連協第5ブロック理事会について、私から報告する。理事会は第5ブロック各市の議長が集まり研修会などについて話し合うものである。今回は10月2日に武蔵野スイングホールで行われた。担当者からいろいろ連絡があったが、統一テーマとして、「社会教育が支える地域教育の創造」～家庭・学校・地域の連携による新たな社会教育をめざして～というテーマが提案され、了承された。事例発表では、武蔵野、

調布、小金井がやることとなった。この事例発表。そして、ワールドカフェ方式でのグループ討議が予定されている。

(倉持委員)

私は今年度より武蔵野市社会教育委員も委嘱されているところである。先週の火曜日に武蔵野市社会教育委員の会議があり、幹事市であるからか今日の資料にあるよりも具体的な提案があった。事例発表は、それぞれの市がそれぞれの得意分野をただ話すだけではなく、事例発表をもとに後半の議論を深め合えるような進め方がいいんじゃないかという話があった。

ワールドカフェ方式についても、いろいろな人と話すのはいいのだが、じっくりと話すという部分に向いていなかったりするので、もっとディスカッション形式のほうがいいのではないかという意見も出ておって、おそらく次回の委員会のころには新たな提案があると思う。

## (2) 玉川上水・小金井桜整備活用計画の策定について

(尾崎生涯学習課長)

資料をご覧くださいと思う。昨年度、業務委託した玉川上水・小金井桜整備活用計画を策定したので報告する。この計画は東京都水道局が平成21年8月に策定した「史跡玉川上水整備活用計画」を受けて、小金井市が取り組むべき整備活用計画をまとめたものである。計画の概要であるが、大きく3つに分けた構成としておる。1として計画策定の基本的考え方、2として整備活用計画の基本方針、3としてモデル区間の整備計画としている。

1ページから7ページ。1では計画策定の基本的考え方として、1の計画策定の目的である。名勝小金井（サクラ）を復活させ、次代に継承するため、東京都及び市民団体と連携、協働して小金井市が取り組むべき整備活動方針を示し、史跡玉川上水及び名勝小金井（サクラ）という、歴史的文化遺産をまちづくりに活かすことを目的としておる。2として、対象区間及び整備期間である。対象区間は、上流は茜屋橋から下流は梶野橋付近までの約3キロ区間が対象となる。整備期間は、「都計画」と整合性を図り、平成22年度から平成31年度までの10年間としておる。3のところでは、条件整備をまとめたものである。8ページから19ページまでの2では、整備活用計画の基本方針として、1の基本方針では、都の計画で示された3つのテーマを地域の特性に合わせて、より具体性のあるものにするを基本方針といたした。2の整備活用計画の方向性では、サクラの補植と並木の再生、緑道の整備、その他散策モデルルートの設定など、9項目にまとめておる。次に、20ページから23ページまで、3では、モデル区間の整備計画である。基本方針として、大正13年の名勝指定時から昭和30年代の景観を復元することを基本方針とした。このモデル区間では、上流は新小金井橋から下流は関野橋までの約640メートルの区間である。都は、このモデル区間を3カ年計画で先行して整備し、市もそれに沿って整備を進める予定で

おる。ここでの実施施策では、ヤマザクラの補植と並木の復活、人道橋の架設、緑道の整備の3つの項目を挙げ、方向性を示しておる。詳細についてはお配りした計画書をご覧くださいと思う。

(吉池委員)

事業区間というのは、どこを指すのか。

(尾崎生涯学習課長)

基本的には、都は小平監視所から浅間橋までの約18キロ。市としては茜屋橋から梶野橋までの約3キロ。10年間で整備する。モデル区間としては新小金井橋から関野橋までの640メートルを3年間でやるという中で、初年度の22年度については試験的な整備区間として市立体育館の入口付近にある歩道橋から東側150メートルぐらいの位置になる。ここに今年度、サクラの補植を約26本と、雑木を伐採する。以上である。

(吉池委員)

小金井の桜を整備することは名勝ということで、小金井公園もあるから、観光誘致の問題もあって、非常に重要だと思う。ただ、ケヤキを含めて緑というものをどう考えるかというのは、また別問題である。武蔵野の自然を守るという活動もあり、東京都の考えが小金井の部分と他の地域とで違う部分があると思う。そこについてはどうか。

(尾崎生涯学習課長)

基本的には小金井市はヤマザクラ並木を復活させるということで、今年度はモデル区間について実施する方向で進めている。ただし、進め方は色々あり伐採についてはこれから協議していくことになる、まず一つのイメージとして桜並木を復活させ、昔はこうだったというのを、モデル区間で示したいというのがある。その後、周辺住民の反響をこれから見ながら進めていくことになる。

(3) 第21期小金井市公民館企画実行委員会の選任について

(大関公民館長)

第21期小金井市公民館企画実行委員の選任について報告する。第20期の企画実行委員は、本年7月20日をもって任期満了となったので、別紙資料のとおり、第21期の新たな委員の選出を行った。以上である。

(4) (仮称) 小金井市貫井北町地域センター建設市民検討委員会委員の選出について

(大関公民館長)

(仮称) 小金井市貫井北町地域センター建設市民検討委員会委員の選出について報告する。既に7月14日に第1回市民検討委員会を行っておるが、別紙資料のとおり、市民検討委員会委員を選出したのでご報告する。なお、以前この会議において、市民

検討委員の委員構成を10名想定していると報告したが、10名を選出した段階で、偶然すべて男性委員であったことから、女性の意見を取り入れるべきとの議会からの指摘や、市民参加条例では男女比に配慮しなければならないということから、女性委員を3名追加している。改めて、この13名の方を市民検討委員として、7月1日付の委嘱状を交付いたしましたので、よろしく願います。以上である。

(5) 三市・学芸大連携事業について

(尾崎生涯学習課長)

ボランティアの資質向上に関する三市・学芸大連携事業平成22年講座について報告する。内容は、コーディネーター初級育成講座となっており。小金井市の放課後子ども教室でもコーディネーターが3名いるが、まだまだコーディネーターが不足している状況もある。詳細な内容についてはリーフレットをごらんいただきたいと思う。以上である。

(6) 第2回市議会定例会の報告について

(渡辺生涯学習部長)

一般質問についてご報告をする。1名の議員から、題名は、1番目として、清里山荘シャトルバス利用実績と今後の課題について、小項目として、①利用実績と内容について、②価格、利用料金の設定について、③広報・PRの課題。同じ方であるが、図書館サービスについて、小項目として、①新年度からの図書館サービスの改善点について、②として図書館サービスの今後の展開ということで質問を受けている。以上である。

(7) その他

(本川議長)

資料の中に清里山荘シャトルバスというものがあるが。

(尾崎生涯学習課長)

清里山荘のPRを積極的にしていきたいという思いがあり、チラシやポスターを、公民館とか図書館に貼っている。また、市政だよりや市報・ホームページにも掲載しており、いろいろな形でPRはしていきたいと思っている。

(渡辺生涯学習部長)

当初は平日の利用客を何とか増やしたいという思いで企画をした。特に今、冬場のスキー客が激減しているということと、秋と春の平日であれば、行ってもかなり楽しめるかなということで企画した。内容だが1泊3食つきである。料金が交通費、保険代込みで12,000円。この中には、清里山荘の宿泊食事料金が3,600円、翌日、布引温泉というところの入湯料が1,950円、交通費6,000円、保険450円ということで、12,000円で実施をした。民間の格安旅行等と比較してしまうと難

しい部分もあるが、この事業は小金井発小金井着である。高齢者の方は往復の交通手段が無い場合があるので、それらの集客を見込んでいます。以上である。

(本川議長)

中村委員、貫井北町地域センターについて、よろしく願います。

(中村委員)

(仮称) 小金井市貫井北町地域センター建設市民検討委員会の第1回が、7月14日に行われた。議題は委嘱状の交付、正副委員長の互選、計画概要の説明等があった。事業者紹介ということで、市のほうで選任された前川建築設計事務所が、今後の市民検討委員会において具体的な青写真を提示しながら、スケジュールとともに提案し、委員がそれについていろいろ意見を述べるというスタイルになっている。

スケジュールとしては基本設計、実施設計、建設工事、オープンという流れになる。その中で、具体的なそれぞれの要求項目、与条件をもとに、建築の構想を確立するというので、そこでも具体的な青写真を落とし込んでいます。その構想に、法的・技術的な裏づけ、及び工期、工費の確認を行い、完成時の姿を明確にするということになる。参加していて思ったのは、委員は建築については素人であるということで、委員の中に学識経験者の方がいて、このお二方が正副議長として会の流れをつくっている。基本設計をこの3月までに決めて、その後、実施設計で、オープンが2014年4月である。委員の任期は、2年ということで、先ほど申したスケジュールの中で、基本設計と実施設計までかわることになっている。2011年3月までの具体的なスケジュールが委員会の開催予定とともに提示された。月1回のペースでいろいろ案をこれからもんでいくことになる。この件については、いろいろ委員の方々からご意見をいただきながら、社会教育委員の会議としての話を私経由でここへ流していくということになろうかと思うので、ご意見等々あったらご遠慮なくおっしゃっていただきたいと思う。雑駁だが以上である。

(本川議長)

どうもありがとうございます。何かご質問あるか。

(浦野委員)

よろしいか。(仮称) 貫井北町地域センターの件について、P連の会議で青少年の居場所について、もし名前をつけるのであれば、青少年・子供たちに聞いてもらいたいという意見が出た。市報にも載っていたが、「市民の声を聞く会」というのが8月1日、2日にあるので、また子供たちが参加してそういうことを言うかもしれないが、一応そういう意見が出たのでお伝え申し上げます。よろしく願います。

以上